

傾聴ボランティア

施設と地域をつなぐボランティア

特別養護老人ホームみなとの園
介護支援専門員 小澤 日登志
生活相談員 渡邊 博子

施設概要

・社会福祉法人 梓友会

・静岡県賀茂郡南伊豆町湯638-1

・平成11年12月開設

鉄筋コンクリート地上3階、地下1階建て

・定員 入所50名（個室6、4人多床室11）

・延床20名（個室4、4人多床室 4）

・職員配置 介護職24名（うち常勤20名）

・看護師5名（うち常勤2名）

・併設事業

デザイナーズ、ホームヘルプサービス、配食サービス

きっかけ

- みなとの園入所者に充実した余暇時間を持ってもらいたい。
- 現状の人員で、これ以上余暇に時間を割くことは難しい。
- ボランティアの方々を活用出来ないだろうか。
- 世の中には傾聴ボランティアというものが有らしい。
- 話を聞くだけなら誰でも直ぐ出来そう。

傾聴ボランティア講演会

- 「傾聴ボランティアってなに」
- 講師
焼津市
傾聴ボランティアグループ「話の和(わのわ)」
- 平成27年11月21日実施



講演会を実施して分かったこと

- 傾聴ボランティアの普及活動を行っている団体があり、傾聴ボランティア養成講座を開催している。
- 傾聴ボランティアの多くはこのような養成講座を受講した人が行っている。
- 各ボランティア団体は独自に勉強会を実施している。
- 県内には多くの傾聴ボランティア団体があり、互いに交流しロールプレイなどの勉強会も行っている。

新たな取り組み

- 傾聴ボランティア養成講座の実施は必須である。
→NPO法人ホールファミリーケア協会に養成講座の実施を依頼
- ボランティア団体を立ち上げるには経験のない我々では難しい。
→南伊豆町社会福祉協議会に協力要請

傾聴ボランティア養成講座

- 日時
平成28年9月の2日間、合計8時間
- 講師
NPO法人ホールファミリーケア協会
事務局長 山田 豊吉 氏
- 8時間の研修修了者 22名

講座の内容

- 講義 「良い聴き手になるために」
- 演習 「傾聴的に聴く」
- RP 「ロールプレイとは」
- PR 「傾聴スキルを使っての対話訓練①」
◎繰り返し
- RP 「傾聴スキルを使っての対話訓練②」
◎認知症高齢者への関わり方
◎実践にむけて「グループ傾聴」について

ロールプレイのやり方

- 話し手(入所者)、聴き手(傾聴ボランティア)、観察者 の3名1組で実施する。
- 一定時間ロールプレイを行ったのちには、「聴き手」「観察者」「話し手」の順に振り返りを行う

ロールプレイの事例

- 「早く主人が迎えに来ないかな・・・」ばかり言う高齢者(女性・77歳)
※本人は認知症ではない。
※傾聴ボランティアは月1回の訪問。
 今回が2回目の訪問。
※民生委員さんの気遣いで、(社協経由で)、
 傾聴ボランティアが訪問するようになった。



養成講座を終えて

- 参加者の感想
話を聴く事を意識したことは無いので、良い勉強になりました。
目からウロコの講座でした。
認知症の話など高齢の私には内容が難しい。
話好きで自分から話してしまうので、傾聴は出来そうにない。
- 我々の感想
傾聴という言葉は頻繁に使うけど理解していなかった。会話を
するのと傾聴とは違っていた。

14名がボランティア参加表明

傾聴ボランティア開始

- 第1回平成28年10月5日 11名の方が参加
- 2回目以降も10名弱の方が参加
参加ボランティアは60歳代から70歳代の地域
でボランティア経験のある方達で総勢15名
- ご利用者は特養・ショート・デイサービスから6～
8名
- 開催場所はみなとの園1階玄関ホール
- 時間は1～2時間



傾聴ボランティア交流会

- 開催日:平成29年5月24日
- 一昨年に講演会の講師を行って頂いた焼津市の「話の輪」のメンバー7名に南伊豆まで来て頂き南伊豆傾聴ボランティア8名との交流会を行った。
- 「話の輪」によるロールプレイ
- 両団体によるロールプレイ
- 茶話会



傾聴活動への反応

- ご利用者からの反応
いろいろな話が出来て嬉しかった。楽しくお話出来た。
喜んで頂き、また来てくださいと、見送りまでする方もいた。
家に帰ると落ち着かなかった方が、傾聴してもらった後、
帰ると言わなくなり落ち着いた。
- ボランティアからの反応
利用者さんが楽しく話をされて聞くほうも喜びを感じました。
とても良い話が聞けた。
人と話をするのがこんなに難しいこととは。

今後の課題

- 開催する曜日や時間帯・場所等
- 傾聴ボランティアとしてのスキルアップ
- ボランティアグループとしての自立性
- 他施設や在宅生活者への訪問

ご清聴
有難うございました

